最優秀賞

地球温暖化から生まれる土砂災害

名古屋市立伝馬小学校　５年　河内　希来里

みなさんは土砂災害についてどのくらいご存じですか。私は、土砂災害についてあまり考えたことがありませんでした。しかし、家族で車で出かけ山道を走っている時に工事によって交通がせいげんされている場所があり気になってまどの外を見てみると、そこには、木がたおれていてがけがくずれたようなあとがありました。私はその光景を見たとき、きょうふを感じ土砂災害について考えさせられました。

土砂災害とは、大雨や雪どけ、火山の活動や地しんなどがきっかけで起こるもので、山がけがくずれたり、水と混じり合った土や石が川から流れ出たり、火山のふん火などによって大切な命がおびやかされる自然の災害で、主なものとして「土石流災害」「地すべり災害」「がけくずれ災害」「火山災害」などがあります。

近年、土砂災害発生けん数は過去５年ごとの平きんで見ると、増加していることが分かります。令和４年では、８月から９月までの期間の発生けん数が多く、大雨や台風のえいきょうが目立っていて多くのひ害がありました。最近は、地球温暖化のえいきょうから台風による大雨や、線状降水帯によって降り続ける雨によるひ害をニュースなどでよく目にします。ニュースで目にする災害の映像はどれもおそろしく、家や道路が土砂でうまったり、大切な命が一しゅんにしてうばわれるなど想像を絶するものばかりで、このようなことが現実に起こっているのかと思うと、こわく悲しい気持ちになりました。

土砂災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。そんな土砂災害のひ害にあわないように今私に出来ることは何か考えてみました。まず、家族で土砂災害ハザードマップを確にんし、土砂災害の起こる可能性が高い場所を事前に知っておき、台風や大雨などでのひなん経路やひなん場所を決めておき、いざというときにそなえて食べ物や飲み物などにこまらないようにひなんグッズを用意しておくことも大切だと思いました。また、災害などが起こったとき、すばやく、とまどわずにひなんできるようにするためにも学校で行われるひなん訓練にしっかり取り組みたいです。

私は今回、土砂災害について調べていく中で、地球温暖化による気候変動によって年々気温が上しょうしたり、台風や大雨のひ害が大きくなっていっているように思いました。また、たくさんのひ害とぎせい者そして、大切な命が土砂災害によってうばわれていることを知りました。土砂災害はとてもおそろしい災害です。ひ害の大きさを予そくすることもむずかしいです。でも、ハザードマップなどを活用し、事前に対さくをしておけば、一つでも多くの命が助かるのではないかと思いました。

私一人の力では地球温暖化を止めることはできません。でも、私にも出来ることはあります。学校で学んでいる「ＳＤＧｓ」の目標の中にも、地球温暖化に関する取り組みがいくつかあります。その中で私が出来ることを見つけて一生けん命に取り組み少しでもその輪が広がっていき、大きな災害が減り、大切な命が一つでも多く守られる、そんな未来が作れるように行動していきたいです。

優秀賞

土砂災害に備える

犬山市立東小学校　６年　小川　蒼翔

ぼくは、学校への登下校に通学班で川沿いを通っている。春には川沿いに植えられている桜の木の桜がとてもきれいで、花見や散歩をする人とすれ違う。桜が終わると毛虫に気を付けなくてはならないが、夏は日陰を作ってくれる。川にきている鳥などの生き物を見るのも楽しい。でも、雨が降る日は違ってしまう。何年も前から河川工事が行われてデコボコ道だった歩道も歩きやすくはなったが、川の水かさが上がり、茶色くにごった様子は不安な気持ちにさせる。工事がまだ進んでいないところが、もしも崩れたら怖いなと思うときがある。

そんなある日、前日まで土砂降りが降っていた。雨が止んでいつも通りに集合場所に行き、並んで出発した。歩き始め、川沿いの歩道を渡る信号に向かっていると、「ドーン」と大きな音がした。車の事故でもあったのかとびっくりして顔を上げると、少し離れた川の向こうにある森の木が倒れるのが一瞬見えた。何が起きたかよく分からないままぼくたちは学校へ向かった。曇っていたけれど、雨は降らなかった。川はにごっているものの、水量はそれほど多くなかった。

帰ってから登校の見守りに来ていた母に聞いてみると、雨で土砂が崩れて木が倒れたかもしれないと言われた。道路が倒れた木で塞がれていたそうだ。大きな被害は無かったみたいで安心した。離れた所から崩れた場所を見てみた。あの場所に家や人、車が通っていなくて本当に良かったと思った。そして、こんな身近に土砂崩れが起こるなんて怖いと思った。雨が止んで川が落ち着いていても、土砂崩れは起こることをはじめて知った。

最近は大雨のニュースが多い。土砂災害のニュースを見るたびに、ぼくが見た倒木を思い出す。今までぼくは、ニュースで家がつぶれていたり、人が亡くなったりしていても現実に思えずにいた。ただ、すごいとか、怖いと思って、そのまま忘れてしまっていた。でも、大きなものではないけれど、現実に土砂崩れを見たことで、よく考えれば、ぼくの住んでいるところは山もあるし、川もある。普段車で通り過ぎる場所にも、土砂崩れが起きても不思議ではないことに気が付いた。道路に面した山には金網や、コンクリートで固められているところがあることを、今まで気にしたことが無かったけれど、土砂崩れなどの災害から、道路を守っているのだと気がついた。ぼくの知らないところで、多くの人たちが安全を守ってくれているのだと気が付いた。

大雨や台風は避けられない。地震も来るかもしれない。だからぼくは、普段自分が歩く通学路だったり、塾や家の周辺だったり、危険な場所などを知っておくことが大切だと思った。今はインターネットなどで天気も早く知ることができる。ハザードマップもある。きちんと情報を集めて災害にあわないようにまた、災害にあっても無事でいられるように家族と備えておきたい。

優秀賞

みんなのいえはあんぜんですか？

豊田市立萩野小学校　１年　中村　天音

わたしのいえは、やまのしゃめんにたっています。おじいちゃん、おばちゃんは、おおあめがふると、いつもしんぱいして、でんわをかけてきます。そのたびに、わたしは、「だいじょうぶだよ。」といいます。おかあさんも、だいじょうぶだよ、といいます。でもほんとうは、だいじょうぶじゃないかもしれないな、とおもいます。

どしゃくずれのえいぞうをみたとき、たきみたいでおもしろいとおもいました。どろあそびなのかな？とおもいました。「もしじぶんのいえが、どしゃでうまったらどうする？」ときかれて、「いやだ！！」とおもいました。たいせつなおもちゃやほんが、どろだらけになったら、むかつきます。すめなくなったらこわいです。

もういっかい、ユーチューブで、どしゃくずれのしゅんかんえいぞうや、ながされたいえ、つちにうまったいえ、うごけなくなったくるまをみました。びっくりドキドキしました。くずれたいえのひとたちは、かたづけがたいへんそうでした。でんき、みずがこなくなって、こまっていました。つかえなくなったものが、たくさんゴミにだされていました。かわいそうでした。

どうしたら、どしゃがこないのかな、とおもいます。とべたらいいな、とおもいます。

わたしのかぞくは、したにおりた、かんのんさまのひろばが、ひなんばしょになっています。だけど、そこににげるのは、きけんだと、みんないいます。おかあさんは、そとのぼうさいスピーカーがいつもきこえないと、おこっています。こいしが、コロコロおちてくると、どしゃくずれがくるっていわれてるけど、よくわかりません。

もし、どしゃくずれがきたら、あんぜんなところへにげたい。だから、しょうがっこうか、しょうぼうしょまで、とっきゅうではしろうかとおもいます。

佳作

土砂災害への考え

犬山市立東小学校　６年　伊藤　彰理

ぼくは、自分的に考えた土砂災害のことや、どうしたら土砂災害の被害を少なくすることができるかなどを書こうと思います。

まず、土砂災害について、ぼくは、やっぱり起きないほうがいいのは確かだし、できるだけ起きないようにした方がいいのだろうけど、自然災害だということもあって、なかなか対策が難しいだろうと思っています。そもそも土砂災害は、こう水などの他の自然災害が原因で、そのまま連続で起きるということが多いので、起きないようにするのは難しいと思います。そして、土砂災害は、火災や地しんとちがってすぐに対応してもらえない感じがあります。火災は消防車、地しんは救急車などがすぐにかけつけますが、土砂災害では、火災や地しんより目立たないうえに、地しんなどの後に起きるので、対応がおくれてしまうのではないかと考えています。そして、土砂災害は、周りと同じような色の土が落ちてくるような感じなので、火災などとちがって、目立ちにくいという所も、対応がおくれる原因になると思います。ぼくはこの前、市の消防学校一日体験に行かせてもらいました。そこで地しんが起きた時の地しん体験や、火災が起きた時のえん道体験（吸ってもだいじょうぶなけむりが広がってる部屋を道なりに進んでいくという体験のこと）をさせてもらったのですが、やっぱり中にいても外で見ていても、起きているということが分かりやすかったので、すぐに人が来たりするのだと思います。このようなことから、土砂災害は、地しんや火災よりも目立っていなく、対応がおくれてしまっているのではないかと考えているのです。土砂災害の対応がおくれると、地しんと同じようにこわれてしまった所がそのままになって、その中にいた人が助からなくなってしまったり、通行のじゃまになってしまったりと、そこそこ大きな被害が出てしまいます。なので、そのままではなく、もう少し対策を考えた方がいいと思っています。

そして、そこでぼくが考えた対策が、「土砂災害が起きそうな所にものを作らないようにする」という作戦です。土砂災害をなくすのは難しいだろうし、先に対応するのも、地しんなどの方が大きな被害があるので難しいだろうと思いました。だから、少しでも被害をへらすために、土砂災害が起きても被害が出ないようにすればいいんじゃないかと考えました。がけのような所の付近に家を建てないようにしたり、雨の強い日は山の近くの道を通らないようにしたりという、ちょっとした対策でも、被害をへらすことはできると思います。地しんなどの広はん囲なものではないので、一度対策するだけでも、大きく変わってくると思います。また、そこに道などを少なくすれば、わざわざ急いで対応しようとしないでも、あぶなくもないしじゃまにもならないと思います。このような理由から、土砂災害が起きそうな所にものを作らないようにすれば、土砂災害の被害がへるのではないかと考えました。

ぼくは土砂災害の被害を受けたことがなかったので今まであまり考えたことがなかったけど、こうやって考えると、まだまだ問題点の多い自然災害なのだと分かりました。こうやって書いていることが、少しでも災害の対策へのヒントになったらいいなと思っています。